

通信教育における国語指導

— 私の実践を中心に —

前 中 早 人

はじめに

一 通信教育における国語科

二 通信教育における国語指導

- 1 学習書
 - 2 NHKの高校講座
 - 3 面接指導
 - 4 添削指導
- ## 三 通信教育における国語指導のあり方
- 1 生徒の生活を理解すること
 - 2 面接、講義を重んずること
 - 3 古典、文学作品、表現理解の指導を重んずること
 - 4 添削指導を重んずること

おわりに

はじめに

私は昭和三十四年四月より昭和三十七年三月までの三年間、広島県広島国泰寺高等学校通信教育部で国語の指導に当たった。通信教育は働きながら学ぼうとする人々に対して、高等学校の教育を指導するのであるが、こゝで学ぶ人々は強靱な意志とたゆまざる努力なしでは成功しないものであって、それを指導するにもなみなみならぬ労苦が存在するものである。いま、三年間をふりかえって、どのよう国語を指導してきたかをまとめて反省してみたのが、この実践記録である。このいたらぬ実践が通信教育の国語指導及び、私の国語教育において役立てばとあえて報告するもので、大方のご指導とご批判をお願いする次第である。

一 通信教育における国語科

通信教育は「通常課程」「定時制課程」とともに、高等学校教育の一つの大きな柱となるもので、教科書、学習内容、学習単位、卒業資格は二者と同じであるが、学習方法において趣を異にするものである。通信教育では毎日学校に出席する必要がなく、定められた報告課題を自学自習し、学校に郵送して、添削されたもので学習を進めるわけで、もっとも個人に即した指導が徹底できるのである。しかし自学自習といっても、教師の役割を果たす「学習書」を教科書とともに購入させて学習を進めさせるが、自学自習の困難さは並大抵ではない。規定の学習を進めると、認定試験を本校か、協力校（地方の高校に委嘱した通信教育生の指導に協力する学校）で受け、合格した時にその科目の終了となる。その間、面接指導を一、二回本校や協力校で実施する。

このような特徴をもつ通信教育において国語科としては、どのような指導を行ってきたであろうか。まずその実績を挙げてみよう。

国語科の専任教師は次のようであった。昭和三十二、三年度は国語科教師一名（通信教育専任教師六名）、昭和三十四年度は国語科教師二名（通信教育専任教師八名）、昭和三十五年度は国語科教師一名（一名休職のため）（通信教育専任教師八名）、昭和三十六年度は国語科教師三名（通信教育専任教師十名）となっており、その他、全日制、定時制から講師の援助を受けている。

年を追うて国語の定員が増加していることは、国語の受講者が増し、単位修得者が増していることによる。これを第1表、第2表によってみれば、年々の増加がわかる。認定者数の国語甲

一、国語甲二の三十六年度が前年度より少ないのは、江田島第一術科学校の生徒の国語甲一、国語甲二の単位修得が六月になるからである。

ある。

第1表学科別認定者数

年度	国語甲一	国語甲二	国語甲三	国語乙	漢文
32	26	15	9	13	3
33	34	11	10	7	8
34	161	39	23	17	14
35	208	151	19	131	23
36	165	126	123	171	15

第2表学科別レポート枚数

年度	国語甲一	国語甲二	国語甲三	国語乙	漢文
32	3428	742	803	449	128
33	6003	942	577	330	416
34	7031	2798	956	629	627
35	7866	6285	2353	3543	1029
36	10862	7507	6213	4346	766

私が通信教育に転任したのは昭和三十四年四月で、それ以後のことしか明らかでないが、学校として、また国語科として、どんな努力をして、このような実績を挙げたかをみよう。

1 通信教育では国語科が基本教科と考えられる。

通信教育は教科書、学習書を読み、理解した上で、解答を書いて送ることが本来の行為とすれば、国語の能力が十分でなければ、通信教育で学習を進めることは困難だ。また実際に国語甲一年の認定が受けられない生徒は他の教科の認定もできないのが実情である。もちろん、通信教育で学習が進められないのは能力の不足ばかりとは言えない種々の原因があるが、国語の学習ができるか否かは、通信教育で学習できるか否かの分岐点になることは事実である。

第3表 国語甲1 進度表

内容		学習すべき本校報告課題	
月			
4	第1回	1 千曲川旅情の歌	2 春十句
5	第2回	3 三塚塚牧場	4 浄瑠璃寺の春
	第3回	1 ことばの力	2 談話の味
	第4回	1 小説の読み方	2 「坊っちゃん」管見
6	第5回	3 安井夫人	4 伊豆の踊り子
	第6回	1 犬の羽衣	
7	第7回	2 赦文	3 忠度の都落ち
	第8回	4 舞へかたつぶり	5 夢窓の鯉魚
	第9回	1 牛になれ	2 手紙について
8	第10回	3 稟中日記	4 日記雑話
	第11回	1 成誓	2 日本の漢詩
	第12回	3 歴史逸話	4 論語私感
9	第13回	1 秋の絵すがた	2 大 3 水 4 生まれいずる悩み
	第14回	1 わたしの勉学時代	2 図書館の使命
	第15回	3 論理をたどる	
10	第16回	1 隅田川	
	第17回	2 うりぬすびと	3 金春会の「隅田川」
	第18回	1 語学珍談	2 外来語の話 3 日本語の特色
11	第19回	文語文法のまとめ	1 用語の活用
	第20回	文語文法のまとめ	一 3 付属語

2、新入生全員に必修科目として履習させる
 国語科が通信教育において基本教科であると同時に、通信教育で学べるかどうかの鍵を握っている大事な科目であれば、まず新入生に対しては、国語甲一年を全員に履習させることがよいと考え、昭和三十五年度から国語甲一年を新入生必修として実施した。通信教

△使用教科書「新編高等学校国語1」（好学社）

育では、どの科目から履習しても許されるが、（但し、二、三年をすぐ学習することはできない。）国語を新入生に学習させることは、生徒に一つの方針を与えたものとして、多大の効果を挙げている。友人と同じ科目を選び、お互いに励まし合って学習し、働きなながらも学校の生徒だとの意識をもち、知らずくの間通信教育生となっていくのである。

3、進度表を作成する

国語甲一年を新入生に必修としたからには必ず何月までには終了し、そのためには毎月どの程度の学習をしたらよいか一定の進度を定め、目標・計画を学校より、生徒に与え、同時に、通信教育で学ぶための方法、学習の態度を学ばせなければならぬ。通信教育生は働きなながら学ぶものが多く、少しの余暇を見出しては学習するので、毎日少しでも継続して学習する習慣を体得せねばならず、どの程度一か月に学習したらよいかの指針ともなって、新入生にはどうしても必要なことであった。また通信教育といえども教育であるから、学校こそ毎日通わないが、定まった度合いでレポートを提出したり、スクーリングに出席するのが当然で、自分の生活に学習時間を見出しえないものは結局通信教育で学ぶことはできないのである。第3表は八か月に国語甲一年を終了させるべく作成したもので四月は入学式が四月中旬になるため、少なくしてある。この進度表を作成するに当たって、毎月の配分は教材の難易度、農村の農繁期などを考慮に入れてある。

4 補充教材を作成する

新入生に必修として課し、進度表を作成して強制するために

は、教師の側にも指導体制を作らねばならない。スクーリングにおいては目標達成のために激励をし、十分に講義をする。また主事をはじめ、各ホーム・ルーム（地域別に分けてている）の教師からスクーリングに出席するためやレポートを提出するための激励の手紙を提出してもらう。NHK放送や添削を通じて励ましの言葉を投げかける。いろいろ方法によって目標を達成させるのであるが、一番必要なことは学習書の説明不足を補なうことで、補充教材を作成した。自然に親しむ、小説の鑑賞、古典の世界、手紙と日記、漢文入門、用言の活用、助動詞と助詞の七冊が昭和三十五年にでき上り、昭和三十六年度には旅と文学、能と狂言ができる。補充教材は学習書の不足を補なうとともに内容理解の方法、難解な部分の説明などを行ない、報告課題を作成する上での便宜を考えて作成した。しかし、報告課題には直接触れることはなく、それを理解する上での参考事項を挙げた。とくに古典、漢文、文法では十分に力を入れて作成したものである。また本校スクーリングで講義をした時のプリントを補充教材として利用して、講義を受けない生徒の便宜を考えた。

補充教材は生徒もかなり読んでおり、第7表のごとく、利用しない生徒は少ない。利用する時も、必ずしも補充教材の初めから終わりまでの全部を読んでいないが、作成した意図は十分達成されている。ただこの調査は(イ)無答で(ロ)は「難問題の時に読む」としたり、(イ)「利用しない」で(ロ)「難問題の時に読む」としたのもあった。

第7表 補充教材を利用するか

(イ)

利用する	18
利用しない	3
無答	4

(ロ)

全部読む	12
難問題の時に読む	8
読む時間がない	2
無答	3

以上の四点以外にも、スクーリング、手紙による激励、添削などの方法により学校を差けて努力してきたので、多くの実績を残すことができた。やはり何か一定の方針のもとに指導することは、教師にとっても、生徒にとっても、一つの努力目標を与えられて、教育上の成果を挙げうるものだとの確信をえたことである。このような方針に対して、私は生徒に対して国語の指導をどのように実施してきたかを、次に述べよう。

二 通信教育における国語指導

1 学習書

学習書は通信教育にとって一番重要な助けとなるものであって、この学習書のでき加が生徒の学習を高める鍵を握っている。あまり詳細すぎると、生徒の学力は伸ばせなく、身につかず、思考力がなくなる。またあまり省略すぎると、学力が不安になり、学習意欲が減退する。ところで学習書の内容はどうであるうか。学習書は各単元が単元のねらい、学習の手びき、学習のまとめ、報告課題、参考資料、単元のまとめ、の順序にできているが、この学習書のねら

いは普通の参考書と異なり、教師が実際に教室において授業するよ
うな順序に作られており、学習書を読めば、いながらに教場で教師の
講義を受けるように工夫されており、なか／＼うまい編集で、生徒
も多くのことを学びうるのである。私も添削の時学習書の何頁を読
むようにと書くことが度々である。しかし利用して不便に思うこと
は古文、漢文、文法など、生徒の困難とする単元の説明がくわしく
なく、はじめて学ぶ、しかも学力もない生徒がすぐに教科書の内容
にはいれるものである。まず基礎に十分紙面をとり、解釈もな
るべく掲げるくらいでない、容易には理解できないのである。教
室で習って理解しにくい内容を独学で学ぶギャップを相当考えなく
てはなるまい。たとえ解釈文が掲載されてあっても、根本となる解
釈力については、なお不安が残るのである。したがって、補充教
材、放送、参考書、テープなどを大いに利用するように奨励した。

次に学習書には報告課題が提示されているが、報告課題の難易
度、学校の実情、報告課題の適正度などの問題をもっている。通信教
育ではこの報告課題のでき如何によって、実力がつかか、否かであ
り、報告課題について教師はもっと真剣に考えてみるべきである。
現状は十分とは言えない。本校では報告課題を別冊として独自のも
のを作成して実力を身につけるように心がけたが、これとて十分で
はない。生徒の中には、教科書、学習書を深く読まず、ただちに報
告課題を提出するものがあり、報告課題だけで実力のつくものであ
りたい。

学校の予算で参考書を備え、閲覧させたり、地方に貸し出したり
して学習の効果を挙げるように心がけたが、予算が少なく、卒業生
の寄贈を受けた書物ばかりというのが現状である。それでも、年々

冊数も増し、借り出しする生徒も多くなり、古文解釈書などは、い
つも貸し出しを受けている有様である。

2 NHKの高校講座

通信教育生の学習に大変役立つものに放送がある。初級講座の場
合は、地区の学校教師の生まの声を聞きながら生徒の実力に合うよ
う講義をされるので、とくに意義深いものである。私も三年間（一
年のうち七月より九月、一月より三月の六カ月）にわたって放送さ
せていただき、私自身勉強させてもらったし、生徒の学習に役立つ
ように心がけて放送したものである。

ラジオ放送を効果的に利用するには、(1) 予習を重んずる、——
たとえ二十分間とは言え、緊張の連続であるためつい聞き逃した
り、聞き流したりする。不明な点は予習して書き抜きでもしておれ
ば、それだけ理解しやすい。(2) 継続的に聞く——思いついた時に
スイッチを入れるのでは本当の価値ある利用はできない。(3) 学習
計画の中に生かす。——自分のレポート作成の過程に放送を入れ
て、学習を高めていく。(4) 各教科に興味をもち、学習の仕方を
把握させる。——無味乾燥な活字で指導するのではなく、個性的な
声で直接訴えるので学習書だけでは理解しにくい点もわかり、教材
の把握の仕方もわかる。(5) 聞く力をつける。などの意義がある。

私は放送するに際しては、最後まで原稿を作成して臨み、つねに
新たな気持ちでマイクに向った。そして原稿を作成するに對し主と
して注意したことは、次の点である。(1)、やさしい言葉で高度な内容
とばも耳ではわかりにくい場合もあり、やさしい言葉で高度な内容
を理解させるようにした。むずかしい点は二度も三度も繰り返した
ため、くどいという批判も受けたほどである。(2) 文章は短かくし

第1表 ラジオ・テレビの通信教育生向
け放送を利用していますか

	男	女
(1)ラジオ・テレビ両方利用している	7	2
(2)ラジオだけを利用している	28	26
(3)テレビだけを利用している	3	31
(4)両方とも利用していない	48	2
無記入		4
計	86	65

第2表 なぜラジオを利用しませんか

	男	女
(1)時間が悪い	20	11
(2)内容がむずかしい	3	
(3)学習進度にあわない	22	22
(4)その他	1	3
そのうち	1	2
「よく聞かないので禁止して	1	3
「仕事で聞けないので禁止して	8	
「自己学習のため	1	
無記入	34	28

て、積み重ねていくことがわかりやすい。④ 最初に要点を述べ、生徒に何について、どういう説明をするのかを把握させてから、こまかい説明にはいることがわかりやすい。(一) 一回の放送において、多くのことを理解させようと欲ばってはならず、一つか二つの重要事項を把握させる気持ちで話し、重要な箇所は何回も繰り返しておくことである。

ところが生徒のほうは、どのように利用しているのであろうか。NHKが本校の生徒に対して調査したものをあげると、第1表、第2表の結果が表われた。これによれば、意外にも利用しない生徒が多く、その主な理由は、「学習進度に合わない」「時間が悪い」である。前者はテキストの編集者が十分に注意していることだが、生徒の個人差が大きく、すべてを満足させることは困難であるし、後者は八時より八時三十分までを希望する生徒がもっとも多いのだ

が、ゴールデンアワーにしてみれば無理で、せめて九時くらいになればよいであろう。この調査は、私の実施した調査においても同様な結果を表わしており、今後大いに研究すべき点であろう。学校ではテープに録音して、幾度も聞かせるようにして便宜を図っており、生徒の自覚次第では大いに効果のあるものと確信する。

3 面接指導(スクーリング)

面接指導は平素個別的に学習して生徒が、一堂に集って、教師の直接指導を受けて学習の徹底をはかり、特別教育活動を通じて、学習意欲を振起し、教育効果を高めようとするものである。本校の場合、毎月二回、日曜日に本校で実施する「本校スクーリング」、毎月四日、仕事を終えて、夜間本校で実施する「夜間スクーリング」、地方在住者のために、原則として毎月一回適宜本校より出張して実施する「巡回指導」(この場合、協力校の先生が出席されて、一緒に指導されることが多い。)夏には「夏期講習会」などを実施している。面接指導では、本校よりの指示事項、教科の学習、各科の質問応答、懇談会、認定試験などを行なって、とかく陥りやすい孤独感や偏狭性をとり除き、相互に親睦をはかろうとするものである。やはり中心となるのは学習指導であって、生徒の質問事項に答えることはもちろんのこと、生徒にぜひ指導しておかねばならぬことを、進んで指導することが大切である。本校スクーリングの場合には、はじめ個別面接だけに終始したが、やがて講義の時間割を作成し、半ば強制的に授業を受けさせた。国語甲一年は新入生必修を掲げてからは重点的に困難な箇所を選び出し、プリントを作成して配布し、重要事項の説明、理解の方法を示したものである。生徒は自己の疑問の解決をはかると同時に教師の講義により理解を深めることを願っている。またテープに重要な事項を録音し、疑問点を解決する手がかりともし、これらのテープ、講義のプリントはさらに各地

4 添削指導

区にも送られ、学習会で、また協力校で聞いたり、説明を受けたりして学習を進める。とかく添削では把握されにくいことが、面と向かって説明されると、すぐに把握できることがたびたびのことを考えると、面接指導の重要性を認識するとともに、独学というものの労苦がしのばれるのである。したがって質問箇所をたくさん持って面接指導に臨まない場合は、せっかく出席しても効果は薄い場合が多いことになる。

また、漢文、古文を読ませてみれば、意外にまじめな説明が多く、解釈でも的確でないことが多い。読みなどは添削よりは、直接に指導することが一番効果があることがわかる。

ところが面接指導に出席する生徒は学習意欲十分であって、指導しやすいが、レポートも提出せず、面接指導にも出席しない生徒は困る(第1表参照)。出席できない理由としては「仕事の都合」が圧倒的に多いことは、働きながら学ぶ者の負わされた宿命とは言っても、雇用主との懇談なり、生徒の自覚なりによって解決する道はないものであろうか。

第1表 スクーリングにどの位出席していますか

	男	女
(1)大体毎日出席している	29	26
(2)半分位出席している	29	27
(3)ほとんど出席していない	18	11
無記入		1
計	86	65

第2表 何故出席できませんか

	男	女
(1)仕事の都合で指定された日に出席できない	37	27
(2)学校までの距離が遠いから	5	7
(3)勉強が進んでいないから	6	5
(4)その他	9	29
無記入	29	29

通信教育は主として通信を媒介とするものだから、添削こそが一番重要であり、これを離れては教師たるのは本務を果たすこととはできない。文字によって相手に説明することは、直接口で説明することより、どんなに困難なものであろう。その困難な仕事を乗り越えて行ってこそ、通信教育生の学力を充実させることができるのである。本来添削は採点とは違うもので、解答が生徒に分れば、能事終われりと満足するのではなく、解答と同時に、相手の実力を考えて、さらにその誤答の原因を教え、考え方を指導し、基本事項や参考にするべき資料をも書き添えてやることこそ添削の意味があるのである。ここにこそその生徒の個性に合った教育ができるのである。相手の学習状況、生活状況を考えて、より高い視野からきびしく指導する態度こそ必要なのである。そうでなくては真の生きた教育はなされないであろう。解答を印刷して配布することをもって終わるようなことが(それが必要な時もあるが)あっては、働きながら学ぼうとする生徒を指導することもできないし、門をたゞいて来ることもないであろう。赤インキでいろ／＼と書かれてあることを、真に喜ぶ生徒なのであり、くじけず学ぼうとする意欲に励まされて添削の筆を進めてきたのである。あたかも生徒は鏡であると徳山主事は話された。教師の熱意が添削に表われ、その反応が生徒のレポート提出となり、面接指導の出席となるのである。添削指導の喜びも、またそこにあると言えよう。

まず生徒の国語の力の状態からみよう。生徒が困難とする内容はどうなるのか。第1表は、単元名についての難易の程度を示したものである。この表では「古典の世界」「文語文法」がむずかしく「手紙と日記」「小説の鑑賞」「自然に親しむ」がやさしい。

第1表 単元についての理解の難易度（2つずつあげる）

単元名	難易度	
	理解し易い	理解し難い
(1) 自然に親しむ	6	2
(2) ことばと生活	5	
(3) 小説の鑑賞	7	2
(4) 古典の世界	1	13
(5) 手紙と日記	9	1
(6) 漢文入門	1	6
(7) 正しい理解		
(8) 旅と文学	2	1
(9) 能と狂言	2	3
(10) 人生を見つめて	2	
(11) 国語と国文学	3	
(12) 文語文法		13
無答	12	9
計	50	50

第2表 レポート提出が一か月以上停滞した人数

単元名	人数
(1) 自然に親しむ	8
(2) ことばと生活	18
(3) 小説の鑑賞	18
(4) 古典の世界	27
(5) 手紙と日記	24
(6) 漢文入門	10
(7) 人生を見つめて	13
(8) 正しい理解	10
(9) 旅と文学	2
(10) 能と狂言	10
(11) 国語と国文学	6
(12) 文語文法	13

第2表は昭和三十五年度入学生レポート提出において、一か月以上停滞した生徒数で、これでも難易の度合いが知られよう。（ただし、教材の難易ばかりでなく、仕事の都合、その他の原因も考えなくてはならないが……）この表では、「古典の世界」「手紙と日記」「小説の鑑賞」「ことばと生活」が困難だと考えられる。第1表と合わせて考えれば、古典、文法がむずかしく、小説、手紙、日記は理解しやすいが（親しみやすが）実際は内容把握で困

難を感じたことが分る。しかし、これも教材の難易ばかりでなく報告課題の難易、学習書の説明の度合い、仕事の都合などの諸原因があることを忘れてはなるまい。ともかく、現代文よりは古文、文法、漢文に指導の力を入れてきたことの正しかったことを物語っている。添削において生徒のどんな誤りが見られるかを検討してみよう。まず例を挙げてみよう。「孟母断機」の説後感を書く問題である。孟子が学問に生て止中で家に帰って来たけれども母は孟子の学問の程度を聞いたけれども孟子は前と同じであるのでその通りに云ったけれども母は刀で今迄おっていたはたを切ってしまったと云う様に孟子の母は孟子が学問の止中で帰って来るのはこのはたを切ったのと同じ事であると孟子に教えその足で学問所に帰らせた[○]と云うこと等孟子がかわいいけれどもせっかくな学問をしているのに何にもならないことを考え孟子のために自分のおっていたはたをだめにしても孟子に対する学問のはげましは普通の人では出来ない事等この文を感じさせるところであり我々も孟子の母、又は孟子の立場となり最後迄学び続けることをわすれず学問のむつかしさや苦勞をわすれず学ばなければならぬのだと感じさせる文である。……

この文章を素材として、これから通信教育生の一般的な誤りを述べてみよう。

1、解答の書写の形式に無関心である
文章のはじめは一字下げて書き、文の終わりには○をつけ、文の途中では適当に「、」をつけることが守られない。「……」などの書き方の基礎になる形式が守られていない。また文字の上手下手はよいとして、正確な文字で、読みやすく書くためにも、書写の形式は守りたいものである。

2、正確な表現が用いられない

前例の文章は「けれども」で長く続き、どこで切れるのか論理がはっきりしていない。だから、なるべく短く書くようにしないと、作者の文意がはっきりしなくなる。また主語と述語、修飾語と被修飾語の関係をはっきりしておかなければ、論理が明確でなく、読みにくい。「この文を感じさせる」も的確な表現ではない。

3、表記が正確でない

当用漢字で正確に書くことが一番であるが、略字を使用したり、旧字体を使ったりしている。はじめの例で言えば、「云」を使用している。間違いやすい文字ならばいたしかたないとしても、はっきりした文字まで間違っている。例文の止中(途中)が、例である。その他、栽培(栽培)、貧乏(貧乏)変し(恋し)親配(心配)家庭(家庭一般)土池(土地)感え(考え)多くさん(たくさん)などは同音のため、似た文字のために間違っている。次に形式名詞の書き方として「……様に」「……事を」「……等を」を使ってある。さらに「かながい」については、「私わ学校へ行く」(私は学校へ行く)「ひざまずく」(ひざまづく)や「送りがな」については、「細い」と「細かに」「少ない」と「少なくない」「及ぶ」「及ばす」などの間違いをしている。以上のような誤りを一語々々添削するのであるから、一日に何十枚も添削できないのが当然である。

4、ピントのはずれた解答

報告課題の要求に添わず、不用意に書いた解答がみられる。たとえ内容は正しくても、課題のねらいに合わなければ、添削されることになる。「百字以内で書け」という場合、百字以上はよくないが、五十文字位のもよくない。こういう例は、大意、要旨、主題、題目の問題にも多く見られ、季語、切れ字、倒置法、詩情、掛詞、縁

語などの言葉でも同様である。

5、指示語が把握されない

指示語は文を忠実にとらえ、文脈を正確にたどることが必要である。全文の流れの中で、指示語の内容を考え、その内容そのものを、その語に代入して正しい解答をもとめるのだが、解答の書き方にも注意してはならない。指示語は学習書に説明が少ないので、それだけ見落とし易いが、十分に理解させておきたい。

6、内容探求力が不足している

学習書には説明してあるために、それにたよりきる傾向がある。要旨、主題、人物相互の関係、主体の追求などは、どの文章でも行なう。そのためには段落、敬語、主語述語の研究をいつも忘れずにおきたい。韻文の場合は、部分をとおして全体の主題、詩情を把握するようにすることが大切である。一語一語のもつ感覚、比喩、象徴を把握させたい。

7、古文の解釈力に弱い

古文の解釈には単語、文法、有職故実などが必要であるが、とくに助動詞・助詞の意味、敬語、文の構成に注意し、一語々に即して確実に理解することが大事である。一般に解釈が微妙な点にまで及ばず、ただあらずじくらしいを知ればよいと考えているようだ、この点でも、「文法」の理解が不足しているのである。

8、漢文の読みが不十分である

漢文は読めば読むほど興味がつづくのだが、その点、解釈だけにたよっているように思われる。口調の中から把握することが大切である。解釈はできていても読ませてみると、とんだ間違いを流出するところに通信教育の欠陥がある。学習書も、もっと詳細に説明し、便利なものにするように期待する。

三 通信教育における国語指導のあり方

通信教育において、さらに国語の学習をよくするには、どのように教師として考えるべきであろうか。私の調査を中心に考えてみよう。

1 生徒の生活を理解すること

まず生徒の学習が順調に進んでいるか、どうかをNHKの調査で本校の生徒について述べると、順調に進んでいない生徒が半数以上もいる(第1表)。学習が順調に進んでいない理由としては(第2表)「学習内容がむずかしい」「仕事が忙しいから」が多いことは、働きの充分勉強ができない「仕事が多忙だから」が多いことは、働きのから学ぶ生徒がどうしても突き当たる壁であろう。これを突き破るためには、まず本人の努力と自覚が大切なことはもちろんだが、同時

第1表 学習は順調に進んでいますか

	男	女
(1) います	34	14
(2) いません	52	49
無記入		2
計	86	65

第2表 学習が順調に進まない理由は何か(第1表で進んでいないと答えた人)

	男	女
(1) 疲れて充分勉強ができない	24	20
(2) 仕事が忙しいから	20	22
(3) 学習内容がむずかしいから	12	12
(4) その他	2	3
	1	
無記入	30	15

に教師のためよざる激励、助言が大切である。スクーリングに出席せずレポートを提出しないことには学習はできない。毎日学校に出席しておれば、単位が修得できるのとは違う。とかく挫折し易い生

第3表 現在の通信教育の学習方法に満足していますか

	男	女
(1) 満足している	45	22
(2) 満足していない	39	46
無記入	2	3
計	86	65

第4表 なぜ満足していませんか(第3表で満足していないと答えた人)

	男	女
(1) レポートの添削がおくれないので学習意欲をなくす	1	3
(2) わからぬ箇所があつても、すぐ解決できない、スクーリングの日に出席できない、月に何回出席しているか	28	29
	5	6
	1	2
	1	2
(4) レポートの添削が不親切である	1	2
(5) 一人ぼっちの勉強では不安がある	9	13
無記入	44	24

徒の気持ちをしっかりと把握し、スクーリング参加やレポートを提出させて、その都度生徒を励ましたい。生活の唯一の話し相手は教師である。また生徒の大部分は中小企業が多く、時間的にも遅くなることも多いと思われるので、雇傭主の理解がぜひ必要である。だから、雇傭主と連絡をとり合うことも、すでに定時制が実施しているように大切なことだと思われる。

2 面接、講義を重んずること

次に現在の通信教育について、生徒はどのように考えているかをNHKの調査でみると、半数ほどは「満足せず」(第3表)その理由は、(第4表)「すぐに解決できない」「勉強に不安がある」と答えている。ただし、この場合無記入が多いので調査として信頼性は薄い。全日制と違って通信教育で学ぶことの不安、孤独な様子をよく表わしている。これを救うには、生徒と接する機会を多くすると

第5表 国語を学習するに
当たって困った点

(1)古文の口語訳、説明、	11
(2)文法の品詞、活用、意味など	8
(3)漢文の読み、解釈、書き下し文	5
(4)参考書や作品をさがすこと	4
(5)作者の意図、内容把握を説明する、 まとめる	3
(6)漢字が読めない	2
(7)基礎能力が欠けている	2
(8)無答	2

るを挙げている。これは予想されたとおりであるが、古文、文法、漢文は講義、テープ、参考書の準備などを十分に考えるべきであ

ともに、講義、補充教材、テープなどの方法で、指導していくことである。とくに「読み」には注意する私の調査では「国語を学習する上での希望する点を列挙せよ」に対して、「スクーリングにもっと出席できたら」、「講義がもっと多ければ」が多かった。これは教師との接触の希望を示しており、しかも教師の積極的な指導を希望していることを表わしている。

3 古典、文学作品、表現理解の指導を重んずること

「国語を学習するに当たって困った点」を調査したところ、(第5表)「古文の解釈」「文法の把握」「漢文の理解」において困って

る。さらに「国語を学んで、うるるところ、よかった点」を列挙させると、つき(第6表)のようになった。

第6表 国語の学習を終わって得るところ、
よかった点(項目を筆者がまとめる)

(1)古文・漢文を学び関心をもつようになる。	8
(2)文章が理解しやすく、簡潔に書けるようになる	5
(3)文学作品に興味をもつ	6
(4)小説の読み方を知り、人生のみづめ方が 違う	4
(5)文字の読み、誤字に注意する	4
(6)国語の基礎が身につく	4
(7)読書くせがつく	1
(8)日常生活の会話に注意する	1
(9)敬語を知る	1
(10)全部がよかった	2

「古文・漢文に興味をもつ」、「文学作品により人生を考える」、「文章・文字の理解」の三点にしぼることができる。古典の理解とともに古典や現代文学の鑑賞を忘れてはなるまい。生徒の生活に密接な関係をもつものは「入生をいかに生きるか」であり、彼等に即した作品の選択や鑑賞が必要になる。もっと文学作品に接する機会を与えたい。それに加えて、文章の理解、文字の把握は基礎学力として、添削、面接を通して理解させるべきであろう。

4 添削指導を重んずること

「添削」が通信教育にとって、一番必要なことは論をまたないが、内容把握のための添削はもとより、生徒を把握した上での添削を考えよう。生徒に即した激励が大切なことは前にも述べたとおりである。添削と関連して、報告課題の適切であるか、ないかが通信教育では大きな役割を果たすので、学習書の充実と並行して、つねに考えられなくてはなるまいと思う。

おわりに

私は通信教育において「国語」の指導をどのように実践してきたかを述べるべきものが、通信教育そのものの問題ばかりを取り上げてきたと反省している。またそうならざるをえないとも思われる。こゝに問題とした国語指導を、今後も課題として研究したいものである。なお、こゝで使用した調査は、NHKの本校における調査、及びこの実践をまとめるに当たって七十名の生徒にアンケートを依頼して、返送された二十五名の調査である。

この実践をまとめるに当たって、徳山主事をはじめ、通信教育の先生方のご指導とご協力を得たことを付記して感謝の意を表すものである。

(昭38、1、21)

(広島県国泰寺高等学校教諭)